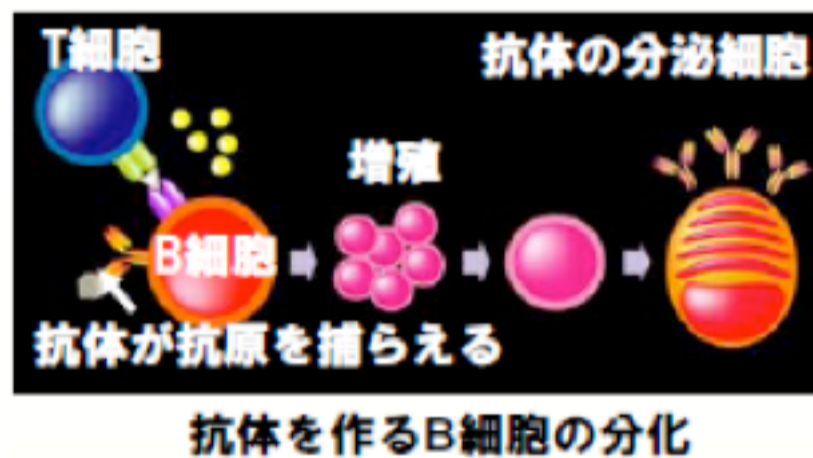


## 末武准教授、日本水産学会奨励賞と日本比較免疫学会古田賞をダブル受賞

魚類免疫学分野におけるめざましい業績が認められ、末武弘章准教授が平成 22 年の日本水産学会奨励賞「魚類の分子免疫学的研究」と日本比較免疫学会古田賞「魚類（トラフグ）の生体防御機構に関する研究」を受賞されました。

末武先生が魚類免疫学領域の研究を始めた当初、魚類の免疫に関わる知見は断片的なものにすぎませんでした。末武先生は適応免疫の根幹をなす 3 種類のリンパ球（抗体を産生する B 細胞、免疫機能を調節するヘルパー T 細胞（TH）、細胞性免疫の主役である細胞傷害性 T 細胞）の細胞の活性制御に関わる抗原提示細胞の機能を解明する手法を確立し、さらに免疫細胞を調節する液性因子、走化性因子の研究にも着手して魚類免疫の特性を次々と解明されてきました。



魚類の B 細胞が活性化する場は未だに不明なのですが、末武先生は本年 4 月に福井県立大学海洋生物資源学部に着任され、「脾臓、腎臓にそのような場があるのではないか」との仮説にたち、その解明に向けて研究に取り組んでおられます。また先生はゲノム解読が進んでいたトラフグを実験材料とされてきたため、トラフグ生産地でもあるこの地でさらに研究を発展されることが期待されます。